

大阪
14:00
祭

8/10 甲子園
取 材
(新聞部)
不越孝生
板倉良子
(早稲田部)
竹島花子
大島鈴里子
滝 百恵

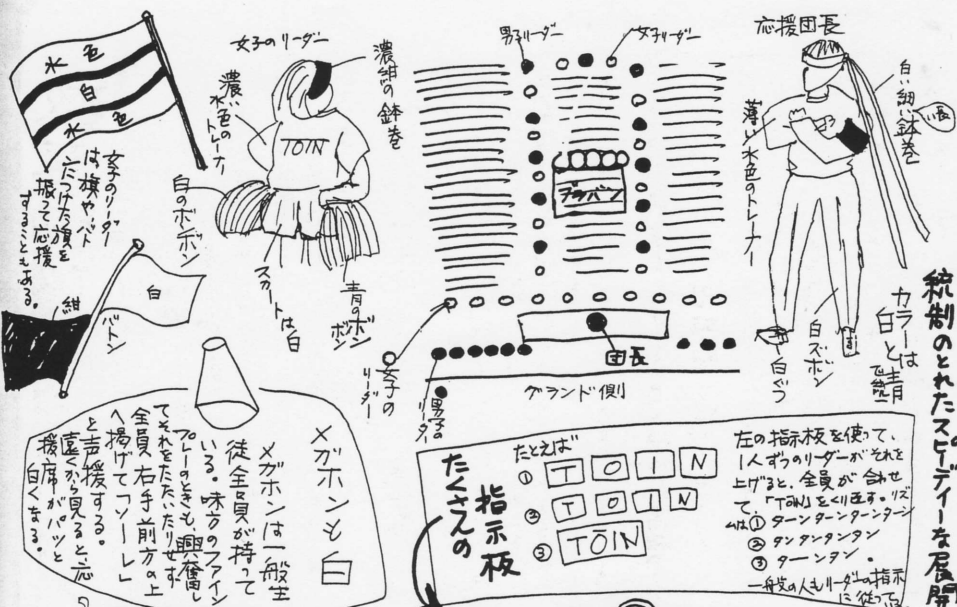
FAX 0185-54-2230

試合もすごいが応援もスゴイ

開会式に引き続いて戦われた沖繩尚学対桐蔭学
 蔭の試合は、息詰まるような攻防がくりなげられた。サ
 い試合だったが、そのなかで試合も「スゴイ」の一語に尽きる。

みごとな桐蔭学園高校の心援

統制のとれたスピーディーな展開



の目で見た甲子園
 新聞部 大越 孝生
 國の代表として注目されるチー
 有力選手をこの目で見るにとがで
 取材に采られて本場によかつた
 甲子園開会式の臨場感には言
 伝えきれぬものではな
 エンスのなくなった甲子園は
 外野が広く感じられた。外野手にと
 っては大変だろつ。
 この大球場が、五万人以上の
 観衆で埋まるわけだが、その中
 でスリーベース（安全）には、もの
 すごい速来中刀が必西女だと
 思つた。

甲子園だより 4

七
代
高

きよう 初戦 (佐賀東高)

応援団元氣に大下入り

本校の初戦・対佐賀東戦は、いよいよ今日戦われる。きのう雨の中を東能代を發った、生徒職員七百十名の能高大応援団も、今朝六時三十分全員元気に大阪に着いた。

今日の甲子園は、晴れてはいるものの、午前中
には雲も広がり、風もいづらかあって、開会式當日
よりは大分涼しやす。しかし生徒は口々に、
「暑さッ」「ムツとするッ」を連発しながら、ひ
とまず、三聖側外野席に着き、そこで朝朝食を
とった。
一試合目は、一塁側近江高(滋賀)対樹徳(群馬)
双方とも青のユニフォームをきぶって、懸念の
応援をくりあげている。本校生徒はこれを見なが
ら、次第に強くなる日射しの下で、カチカチ
りやウーロン茶を買って飲んで、経過を見守
っている。
そして六回を迎えるところで、アルカスタンドへのつ
場準備に入り、一般応援団とともに試合場入りした。

岡 公央之
保坂靖夫
坂田修

八段發
フアックス通信
新開部
部洋平
山、大塚、土格

の回裏・執念の大逆転
能代高に勝利の女神

その
熱狂舞臺に
踊るK子に

初回能代高の攻撃手は一、二番が倒れたあと三番大塚が三塁打、続く加藤が四球で一、三塁とした純好のチャンスをバッテリーは成田。三遊間を破って待望の先攻点をあげた。二塁後援度

るべしと感じさせられる。
しかしその重宝、立ち上がり制球
難におえぐ成田はいきなり四球
をよる、盗塁と送りバントで一死
三塁とされたあと、スリバントスク
イズを決められ、ノーヒットながら同
点にされてしまった。

五回、佐賀軍の足でがきまわす機械動力野球に大感心した三浦を許してしまふ七回に能代は一死、藩主のチャンスをを得るが、結局一点ばかりで三浦二のまた後半の八、九回を残すのみとなつた。

次第に佐賀ハースで終わるのかといふ不安を掻き消したのは八回、佐賀の永石の当ナリを柳谷が不塁へ好返球殺したときと、アレス・スタンは総立ち。応援団は応援体制を組み立てる。余格はなぐ、「能代、能代、能代……」を絶叫するばかり。泣き出してしまふ生徒多い。

九回、先頭の成田が二塁打。内野アウト四球で一死満塁とした後、土橋が右前にタイムリーヒットを放ち同点。土橋は、代走、後援川原が、逆転の一打を奪いとった。

九回裏表。自分ペースをとり戻した。
田は最後の打をミイライに打ちつた
(三二二三田のミイライを返えなかり)
(8回)

三畠内野席で取材 (大塚・土橋)

佐賀東対能代

11:15 じろ [3塁假体校バスケをのそく]
ネットを以て、試合前の本校バスケの本場をのそく。緊張した様子にはあきれ見られなく。福司選手がバスケをやったのを聞いて、土崎選手が笑っていた。三選手も、笑っていた。
成田投手にビビンの記者(カメラマン)が声をかけて、成田投手がそれに応じてホームを走っていた。

11:30:3 [試合開始・同じく墨ハナ選手]
 和藤主将が声をかけると選手がみんなてん
 陣を組んで、気合を入れた。いよいよ試合開始。

立ち上がり:
3番大塚が2ベース、4番加藤がオアポールと決めたのち、5番成田がレフト方向へヒットを打つ。1点を上げた。
ところが4回裏、先頭打者にいきなりオアポールで5点を奪われ、1点とらわれてしまった。満塁でサヨウナラ。

10盗塁、「足」を使った機動力みごと!!(佐々木)

能代	1	0	0	0	0	0	1	0	2	4
佐賀東	1	0	0	0	2	0	0	0	0	3